

研究チームの紹介コーナー

火力部 技術グループ

火力部技術グループは、垣内グループ長以下13名で、技術チームとシステムチームから構成されています。グループ業務のひとつである研究総括業務として、火力部門の研究取り組み方針の策定や研究の計画・管理などを行っています。



メンバー紹介

具体的には、研究計画の審議会、終了研究の評価会、火力部門技術研究発表会等の開催・運営、技術開発本部との情報交換、研究開発の効率的・効果的な運営のサポート等を実施しています。



火力部門技術研究発表会 発表の様子

1 火力部門の技術研究開発

火力部門においては、電力自由化の一層の進展による競争の激化に対応するため、設備の余寿命評価手法・延命化手法に関する技術開発や新たな保守運用方法の確立など一層のコストダウンにつながる技術開発に重点を置いています。また、環境負荷低減対策として、石炭灰など廃棄物の減量化・リサイクル化やバイオマスなど新エネルギーの利用拡大に関する技術開発を推進しています。

2 火力ノウハウ情報提供システム(KISS)の開発

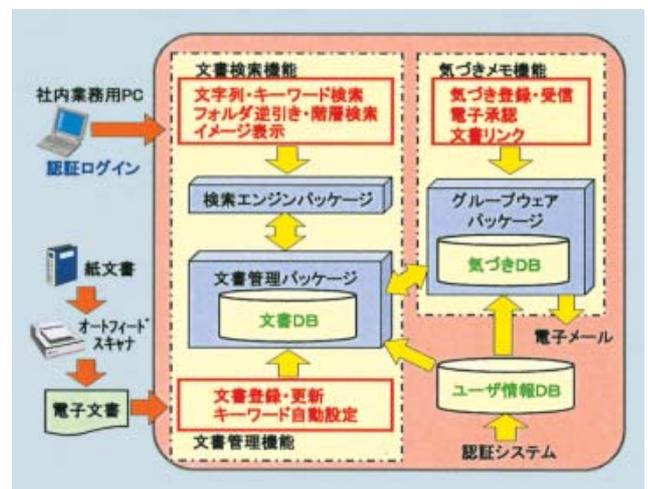
ここでは、最近の研究成果として、技術グループのシステムチームにおける「火力ノウハウ情報提供システム(KISS)の開発研究」について紹介します。

<研究概要>

火力発電所は、ボイラ、タービン、発電機、計測制御装置など多種多様な設備で構成されており、これら設備の運転保守に関するノウハウが膨大な技術文書として、主に各部署の共用パソコンや書庫に保管されています。一方、自由化競争に打ち勝つため、発電所のプール運用などの業務運営方法の効率化が実施され、事業場や部署を横断した業務への取り組みやノウハウを確実に伝承することの重要性が高まっています。そこで、汎用パッケージソフトを効果的に組み合わせ、技術文書やノウハウを体系的に蓄積でき部門全体に提供可能となるシステムを開発し、平成17年4月より運用を開始しています。

<主な成果>

業務に必要な文書の入手時間や作成時間の効率化
各種技術文書の入手容易化により、従来できなかった高度な業務への取り組みが可能となる。
他部署からの技術文書調査依頼に対応する業務が低減する。
気づきメモの活用により、業務課題の早期解決や技術力の向上を支援することができる。



火力ノウハウ情報提供システム(KISS)全体構成

3 火力部門の研究推進体制

これまで火力センター管下の技術開発については、火力センター総務部火力課が中心となってサポートを行っていましたが、平成17年7月からの組織改定により技術グループが火力センター管下も含めサポートする体制となります。また、技術グループにボイラ、タービンなど各分野の専門担当者を選任し、より現場に密着した技術開発ができるよう研究推進体制を強化しました。今後は、各分野の専門担当者を含め、火力部門の課題やニーズを研究テーマに結びつけていきたいと考えています。